

2 由利本荘市の現況

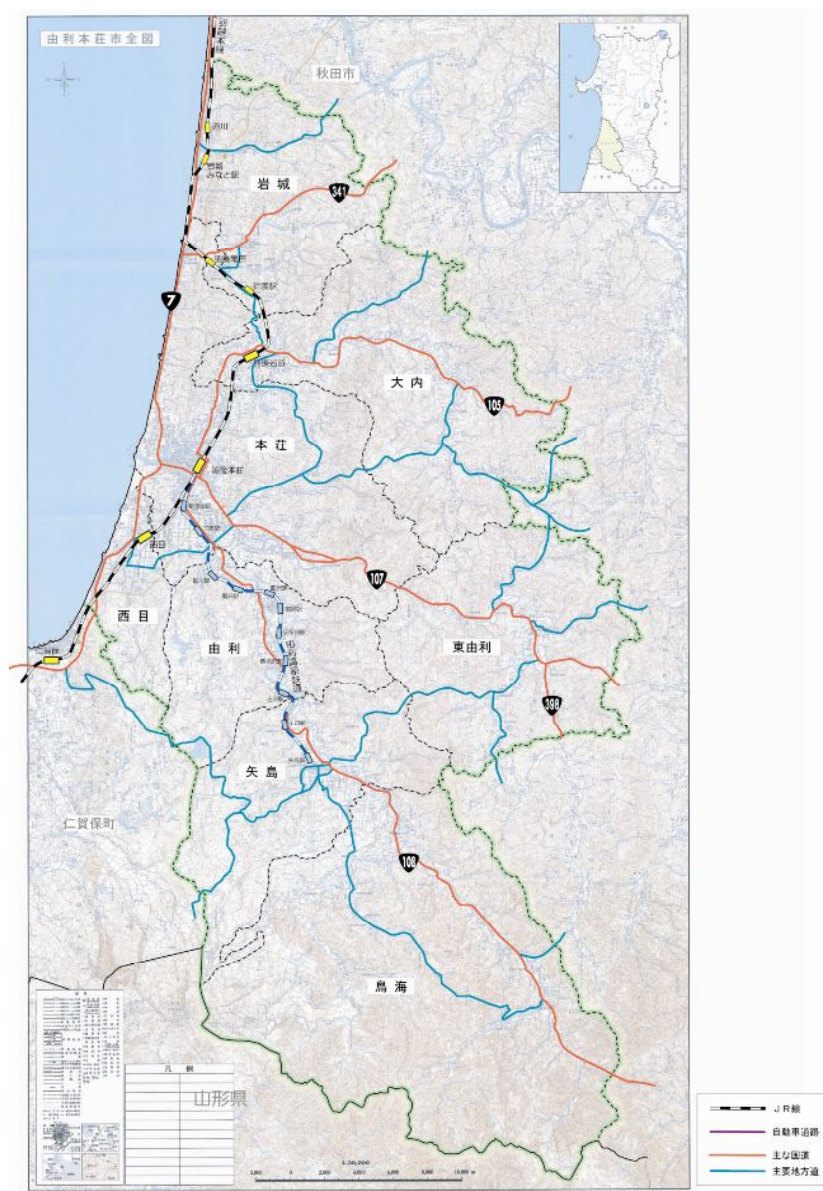
2-1 由利本荘市の概要と特性

(1) 由利本荘市の概要

1) 位置と地勢

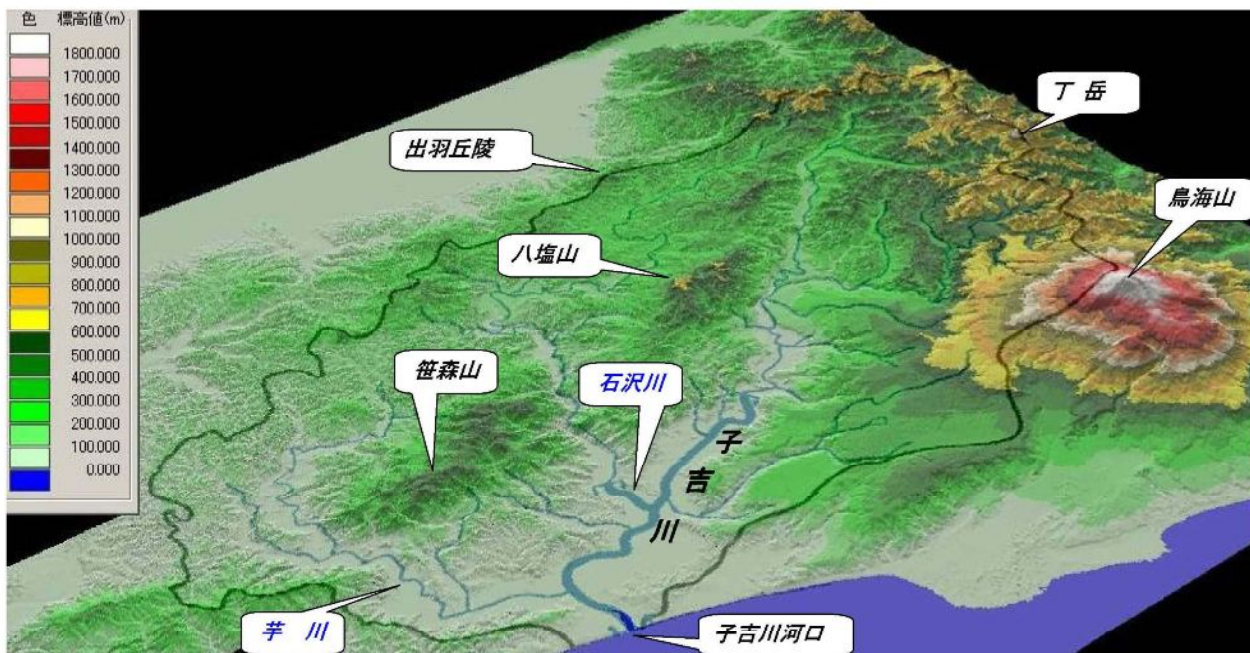
由利本荘市は、秋田県の南西部に位置し、北は秋田市、南はにかほ市、東は大仙市・横手市・羽後町・湯沢に接し、県都秋田市には20km～60kmの圏内にあります。

南には標高2,236mの秀峰鳥海山、東に出羽丘陵を背し、中央を1級河川子吉川が貫流して日本海に注ぎ、鳥海山と出羽丘陵に接する山間地帯、子吉川流域地帯、日本海に面した海岸平野地帯の3地帯から構成されています。



資料：由利本荘市の統計資料 平成17年度版(秋田県由利本荘市)

■ 子吉川流域の地形鳥瞰図（イメージ）



資料：出典：「子吉川の概要」 国土交通省東北地方整備局 より

2) 沿革

由利本荘市は、古くから歴史・文化的に深いつながりを有した本荘由利地域の1市7町（本荘市、矢島町、岩城町、由利町、大内町、東由利町、西目町、鳥海町）が合併し、平成17年3月に誕生した都市です。

由利本荘市は、全国で11位、秋田県では第1位（2008年10月現在）である1,209.04平方キロメートルという広い面積と約9万人の人口を有し、秋田県南西部の核都市に位置づけられています。

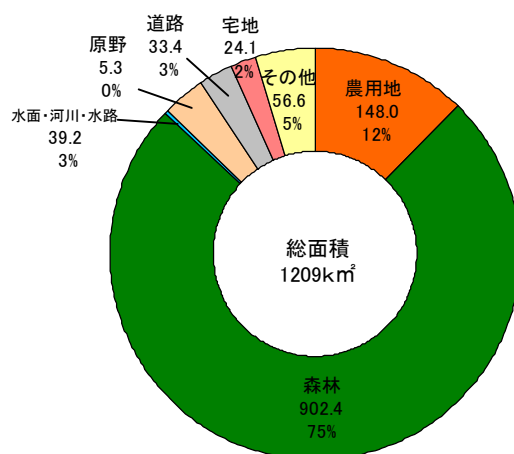
3) 土地利用の状況

本市の土地利用は、山林が市域の約 75%を占めており、農用地は約 12%、道路が約 3%、宅地は約 2%となっています。(由利本荘市国土利用計画 基準年 H. 16 年)

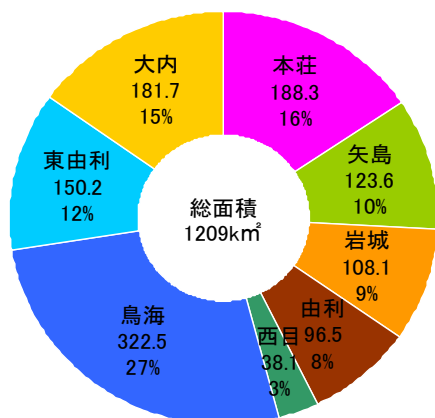
本市は、その生い立ちから合併前の旧市町である 8つの地域から構成されますが、地域別に見た面積構成は、鳥海地域が約 27%を占めるのに対し、西目地域は約 3%となっています。

また、宅地の地域別構成を見ると本市の宅地の約 4割を本荘地域が占めています。

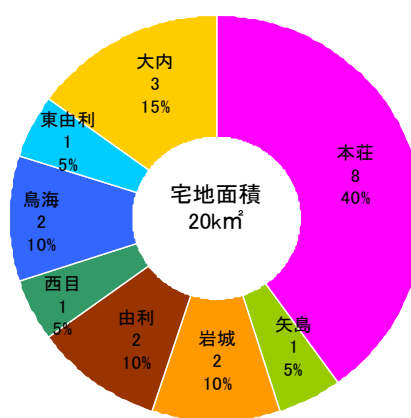
■土地利用状況



▲土地利用面積構成比 (由利本荘 計)
(H16. 1. 1 現在)



▲地域別総面積構成
(H16. 10. 1 現在)



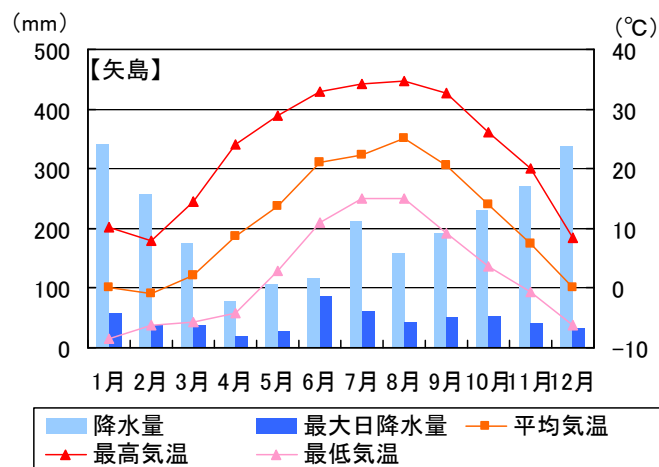
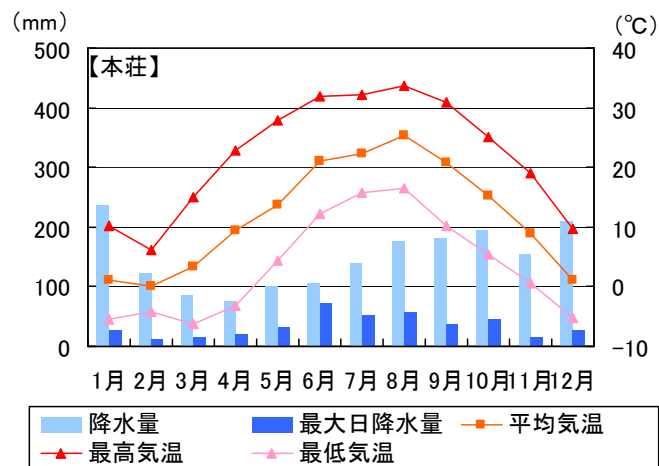
▲地域別宅地面積構成比
(H16. 1. 1 現在)

4) 気 象

広大な面積を有する本市の気象は、山間地域、子吉川流域地域、海岸平野地域に大別されますが、総じて冬季における寒冷積雪と夏期における高温多湿を特徴とする日本海性の気候です。年間降水量は 1800 mm～2400 mm程度で、冬季の降雪による降水量が多く、12月～3月までの降水量は 700 mmを超えます。

また、人口の集中する海岸平野地域は対馬暖流の影響により冬季の気温が比較的高く、降雪量も内陸、山岳地域に比べ少なく、秋田県下で最も温暖な地域となっています。

■ 2005年の気象 (気象庁：気象統計情報)



5) 人口の動向

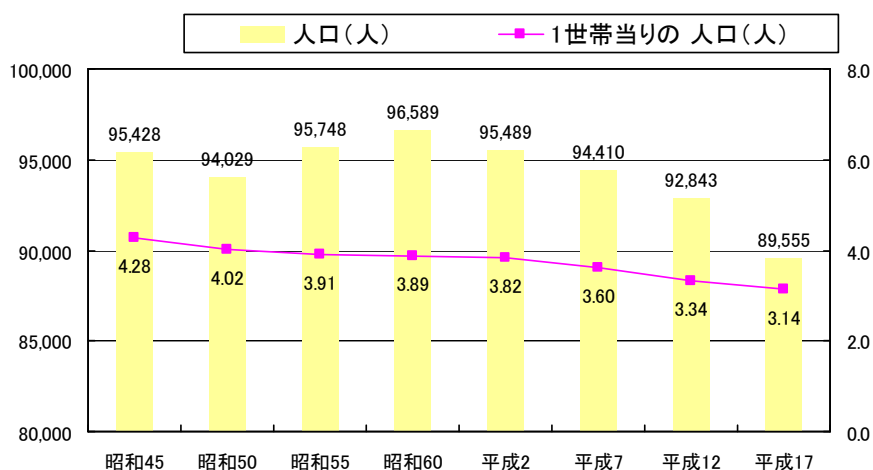
①人口

本市を構成する8つの地域の総人口は、昭和60年の96,589人をピークに減少に転じ平成17年現在、89,555人となっています。(国勢調査結果)

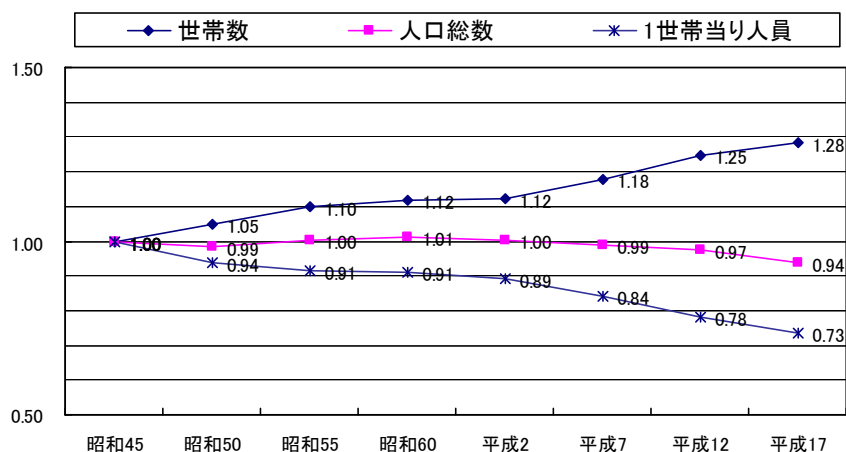
人口減少傾向が続く中、世帯数は増加しており、1世帯当たりの人員の減少、いわゆる核家族化が進行していることがわかります。

今後の本市の人口については、中山間地域の減少が予想され、総合発展計画では平成26年度の目標人口を86,000人と想定しています。

■人口総数の推移(国勢調査)



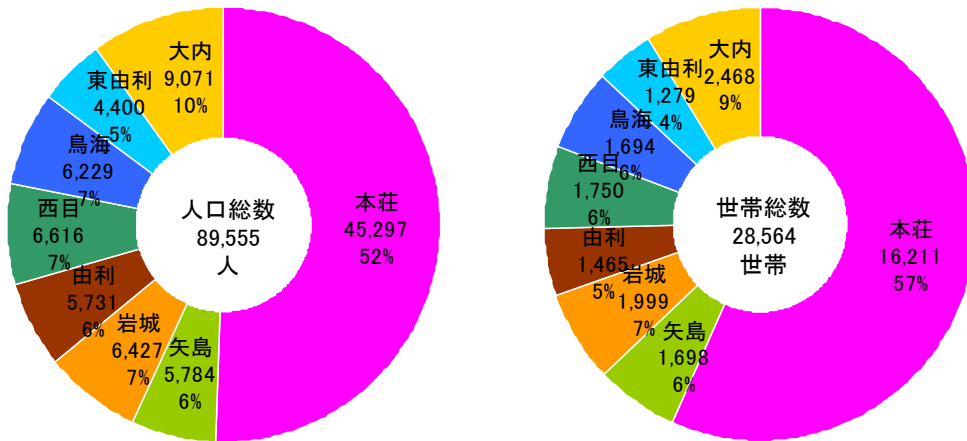
■昭和45年を1とした場合の人口指標の推移



②地域別の人口

本市を構成する8つの地域別に人口・世帯数の分布を見ると、本荘地域が人口・世帯とも全市の半数以上を占めています。その次に大内地域が人口・世帯数とも約10%で、その他の6地域は概ね5～7%の割合となっています。

■地域別の人口・世帯数分布状況



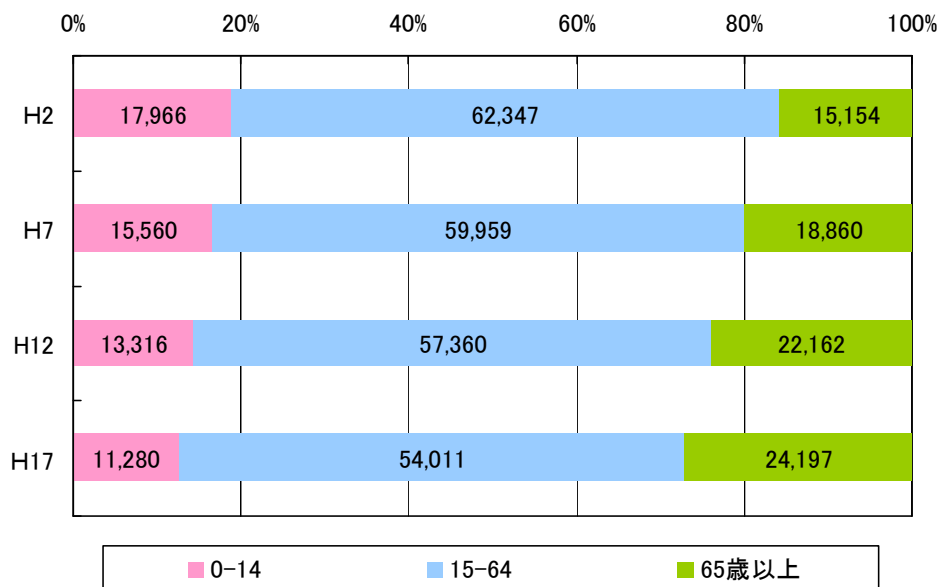
③年齢構成

年齢構成は、年少人口（0～14歳）の比率が12.6%、生産年齢人口（15～64歳）が60.2%、老年人口（65歳～）が27.1%となっています。（平成17年現在）

老年人口の割合は年々増加が続き、平成7年に年少人口の割合を超え、平成17年には約27%と4人に1人を上回っています。この値は全国平均の高齢化率20.04%（H17）と比較すると高い割合を示していますが、秋田県の平均と比較するとほぼ同様の速度で進行していると言えます。

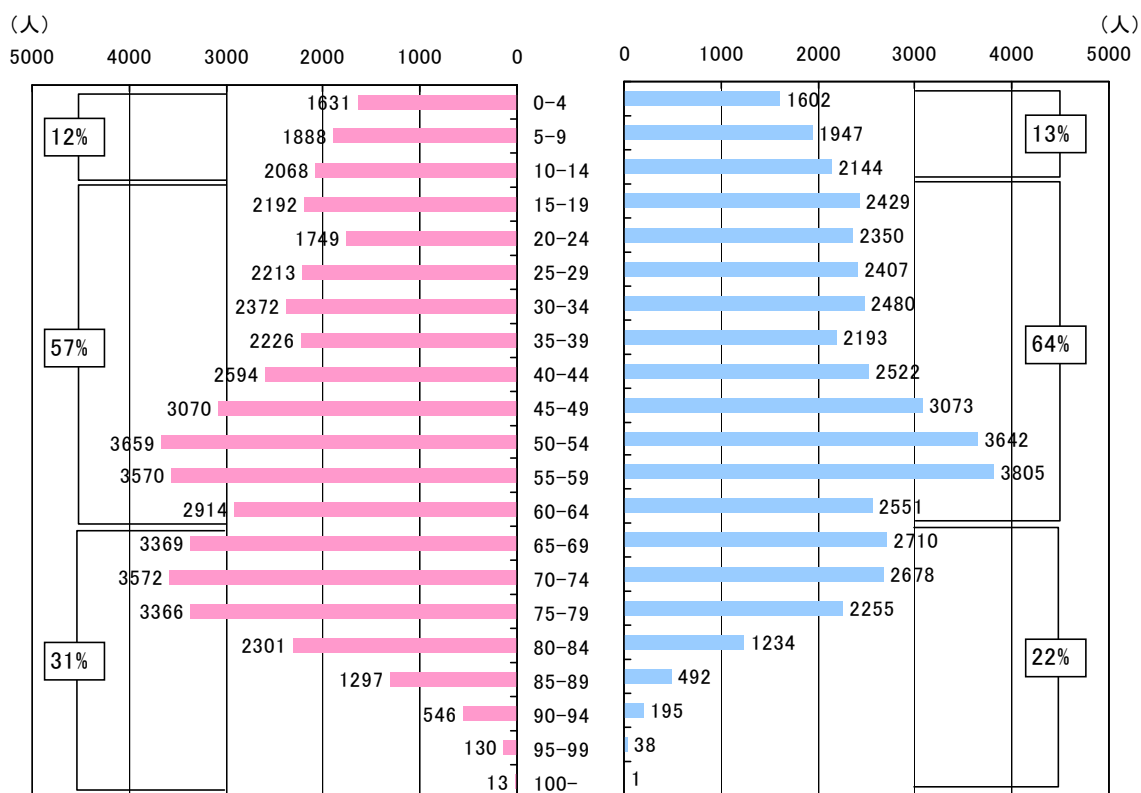
「高齢社会白書 H20」（内閣府）によると、我が国の総人口は長期の減少過程に入り、総人口が減少する中で高齢者人口が増加することにより高齢化率は上昇を続けるとされています。このような状況の下、本市においても引き続き高齢化が進行するものと考えられます。

■ 年齢3階級別人口構成比の推移



※年齢不明を除く

■ 男女別・年齢5歳階級別人口分布 (H17年)

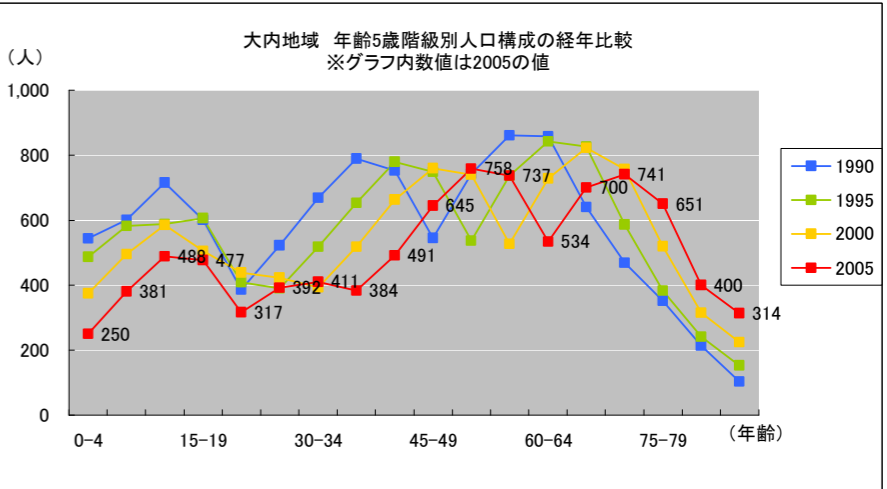
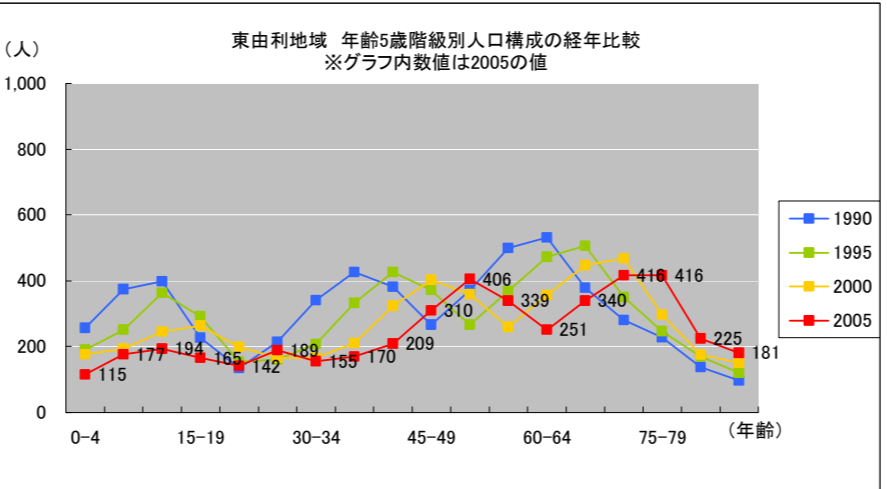
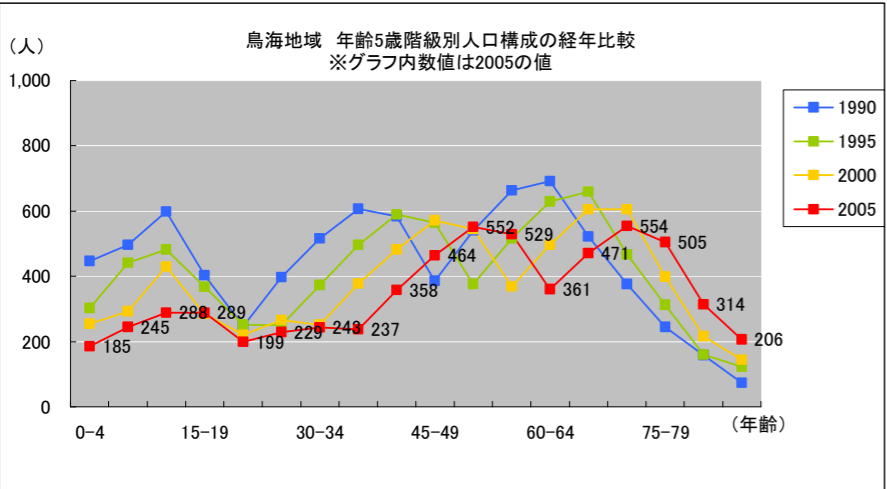
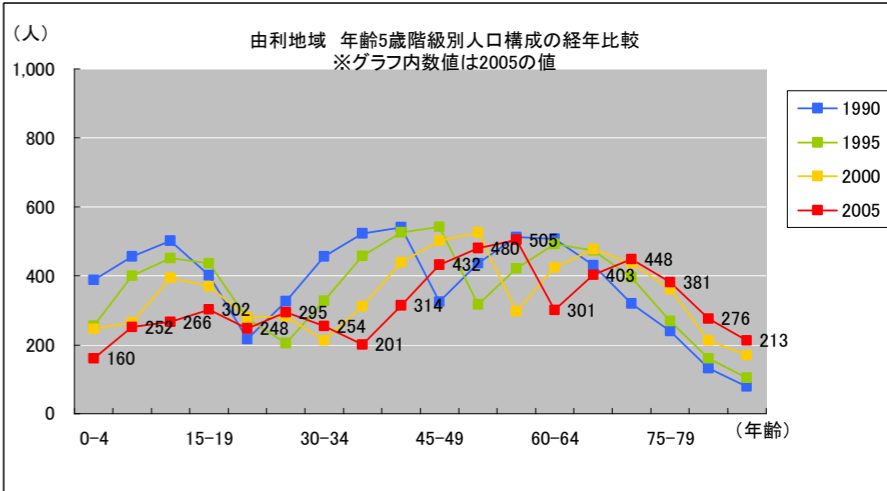
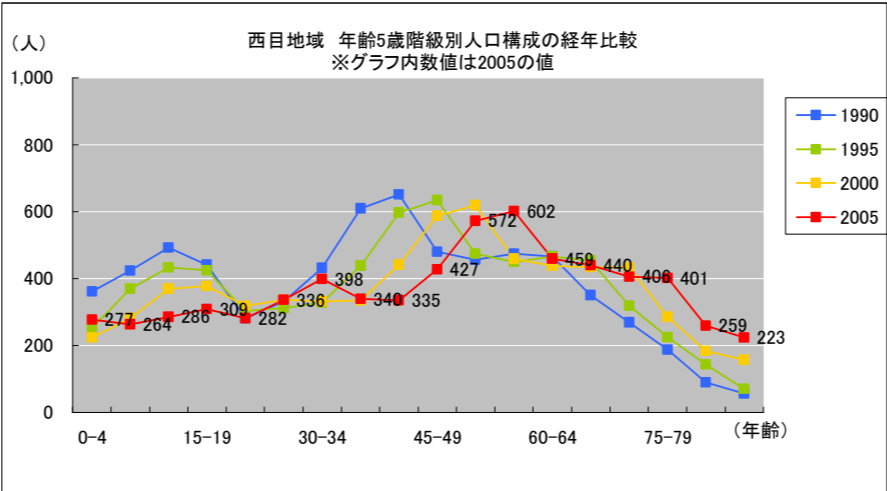
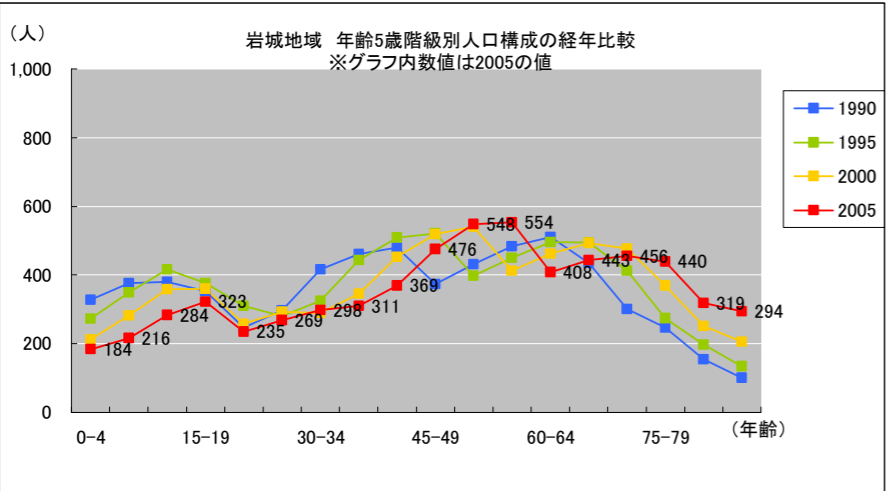
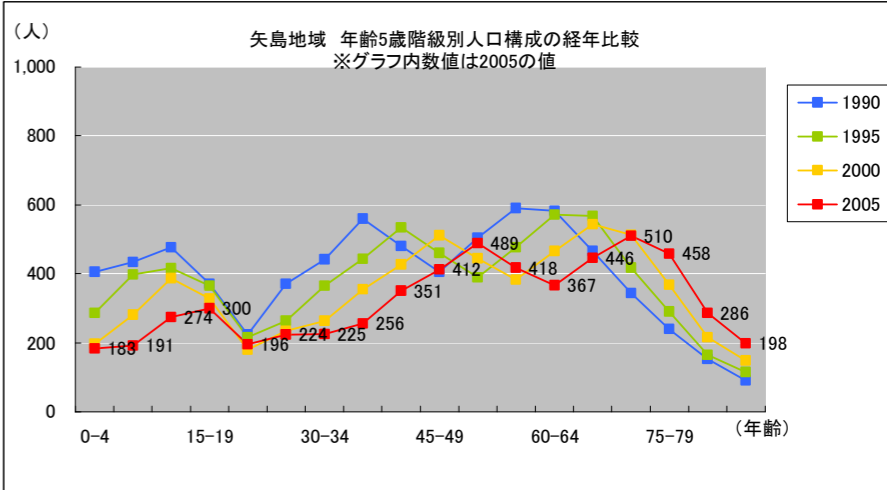
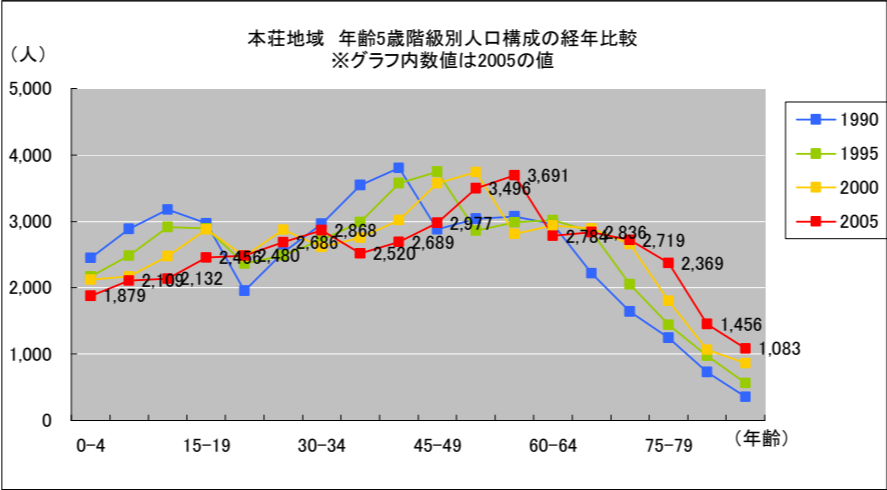
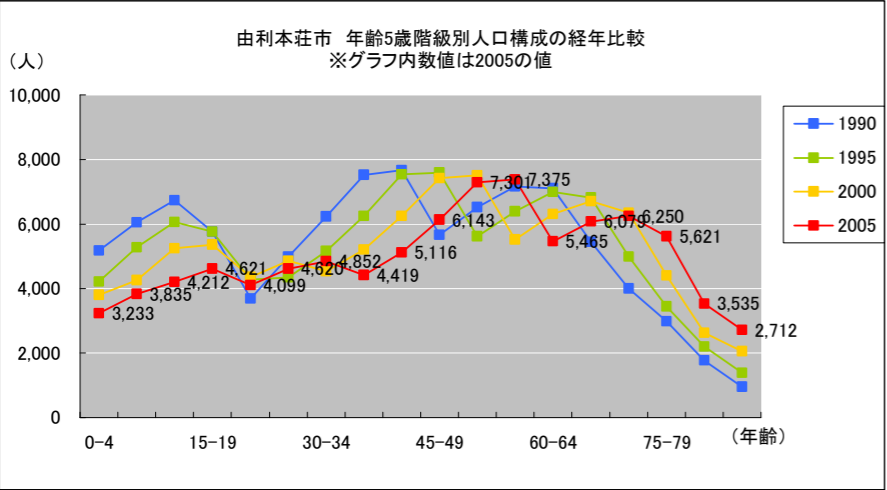


[女性]

[男性]

※年齢不明を除く

■地域別年齢5歳階級別人口の経年変化 (H2～H17)



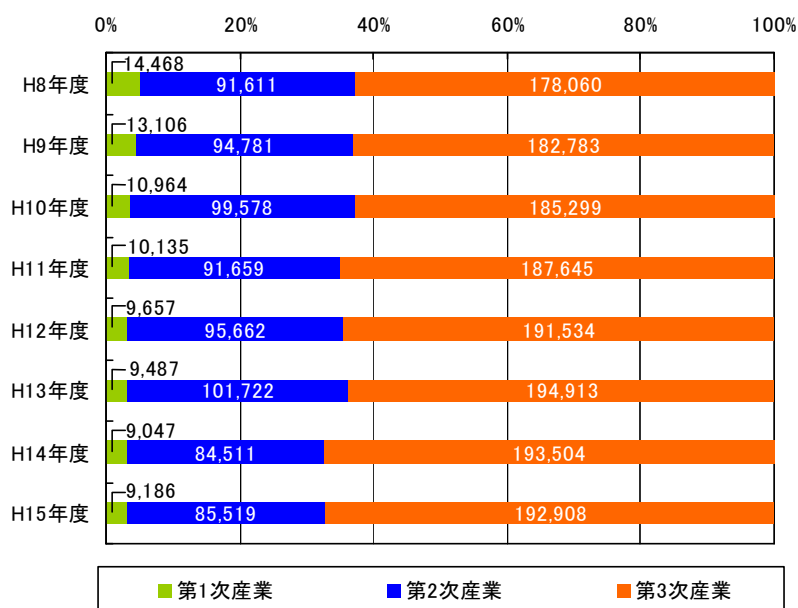
6) 産業の動向

①産業の動向

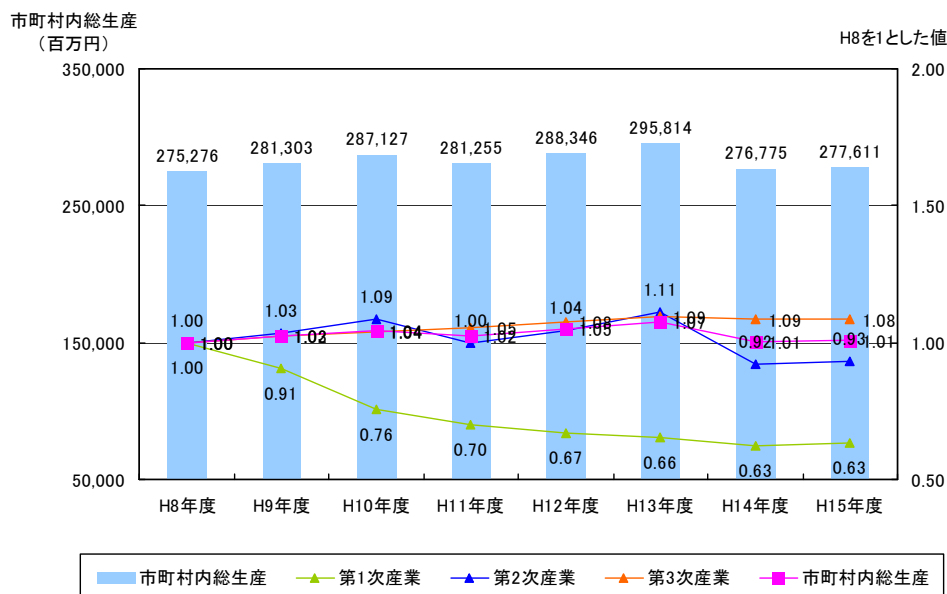
本市の産業の動向を生産額で見ると、第3次産業（サービス業、卸売・小売業、飲食店等）が60%以上、第2次産業（製造業、建設業等）が約30%を占め、第1次産業（農林漁業）の割合は約3%程度となっています。（H15年度）

生産額の推移は、第1次産業の減少が顕著ですが、第2次産業は横ばい、第3次産業は微増と大きな変化はない状況にあります。

■産業大分類別生産額の推移



■市町村内総生産額と産業大分類別増加率の推移



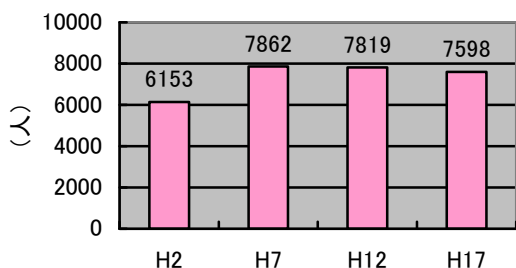
②農業

農業は、地域経済を支えてきた本市の基幹産業ですが、農業従事者の高齢化や後継者の問題などの厳しい環境の下、農業就業人口は平成7年をピークに微減傾向を示し、経営耕地面積は平成2年以降減少傾向が続いています。

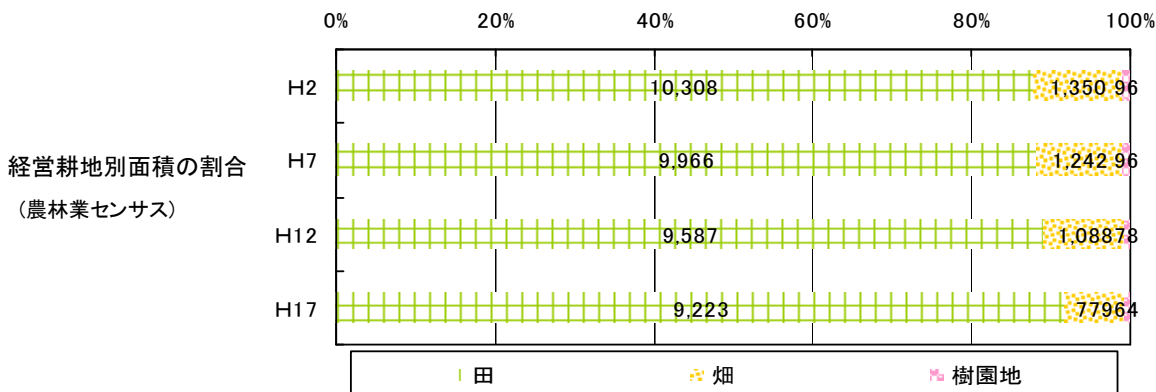
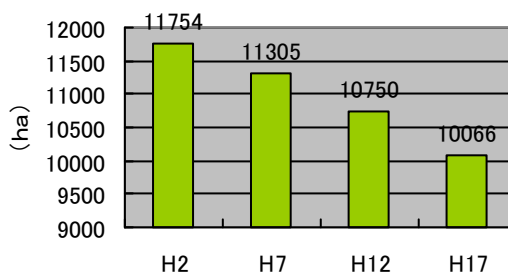
経営耕地別面積は、全体の約9割を田が占めており、稲作が本市農業の中心であるといえます。

また、本市の8つの地域別に農業就業人口比（地域別農業就業人口／地域人口）を見ると、鳥海地域、大内地域が農業に従事する人口の比率が高く、西目地域、本荘地域、岩城地域の比率が低くなっています。

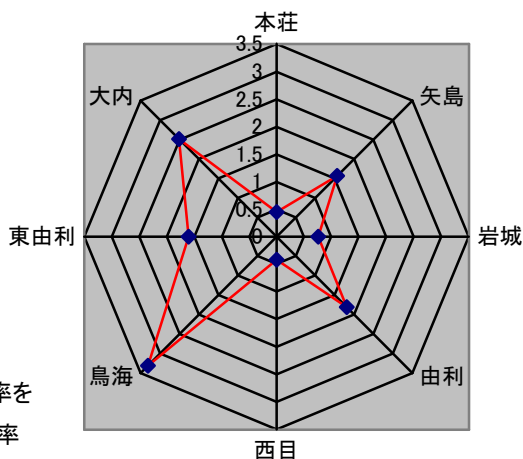
農業就業人口：販売農家(農林業センサス)



経営耕地面積：販売農家(農林業センサス)



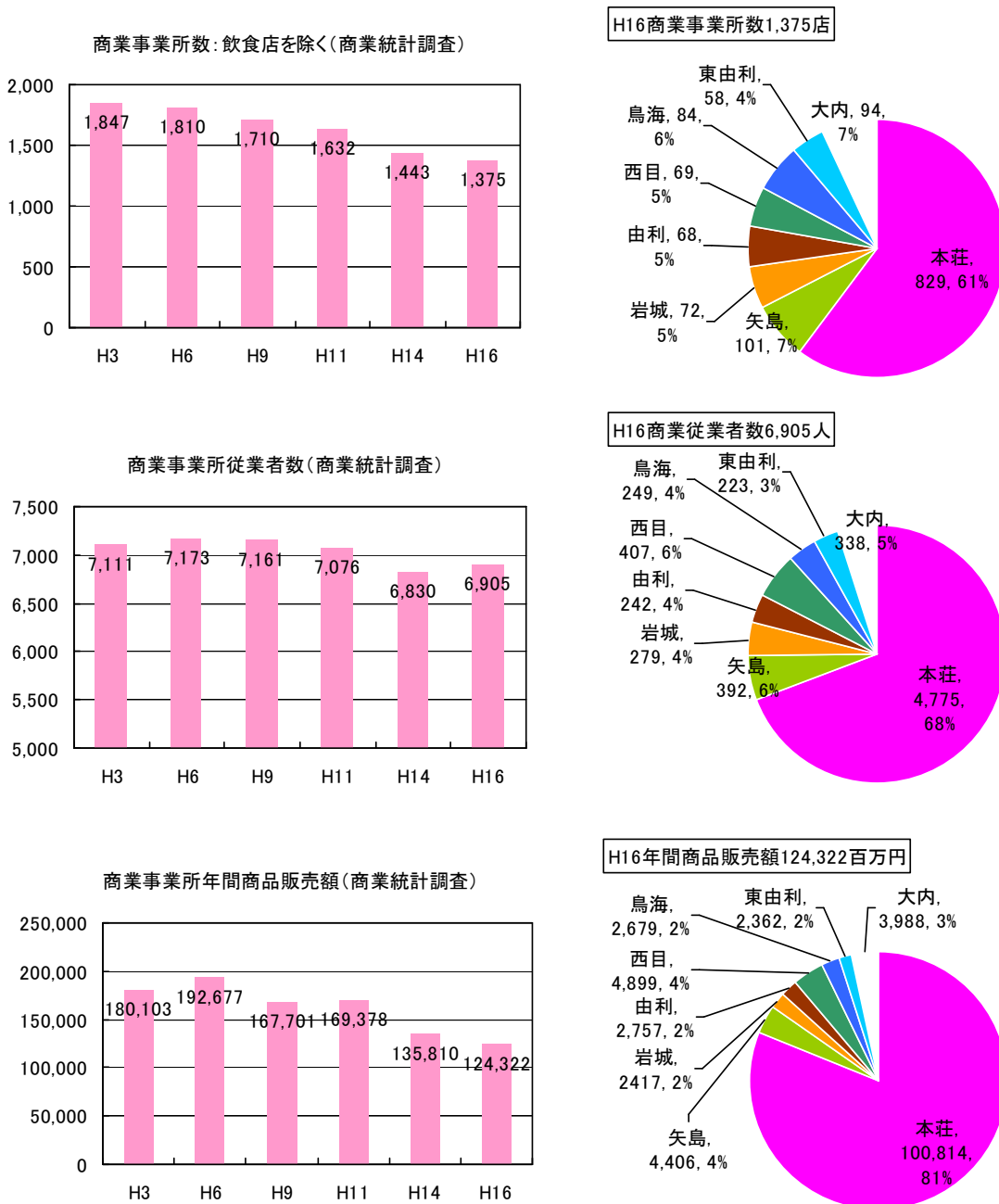
地域別農業就業人口比



③ 商 業

本市の商業は本荘地域に集積していますが、中心市街地における商店街や既存店の多くは、後継者問題と郊外への大型店・量販店の進出などにより、厳しい経営環境にあります。

商業事業所数、従業者数、商品販売額とも近年は減少傾向を示しています。



④ 工 業

本市の工業は電子部品関連企業の集積が進展していますが、特定業種・企業への依存度が高いため景気変動の影響を受けやすいなどの課題もあります。

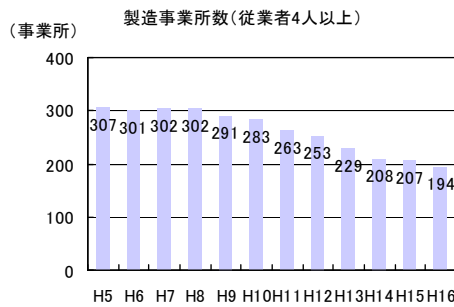
工業統計調査によると、本市の製造業事業所数は減少傾向を続け、平成5年の307から平成16年には194（37%減）と200を割り込みました。

従業者数も減少傾向を示し、ピークの平成6年から平成16年の10年間で約3,000人（28%）減少しています。

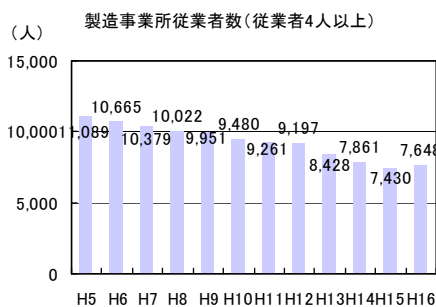
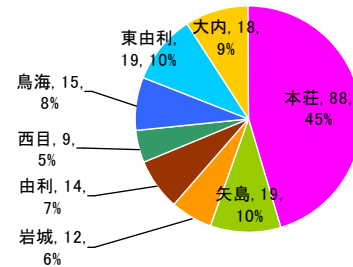
製造品出荷額については、景気の影響などによる変動が大きく、一定の傾向を示してはいませんが、概ね1,200～1,600億円の範囲で推移しており、平成16年は約1,400億円でした。

産業構造の転換や経済のグローバル化などにより、国内工場の整理・統合や生産拠点の海外シフトなどの動きが全国的に起こっており、本市も例外ではないと考えられます。

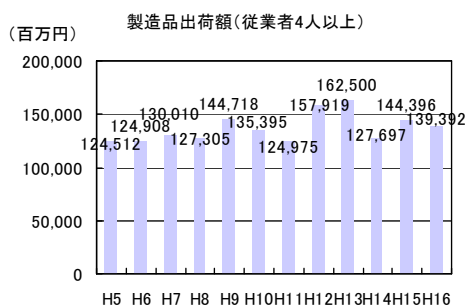
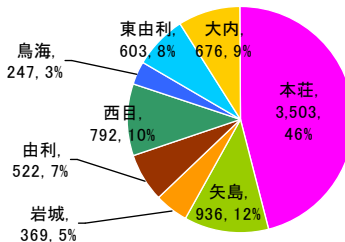
また、地域別には事業所数、従業者数、出荷額とも製造業の約半分が本荘地域に集積しています。



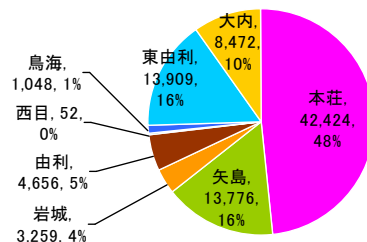
H16製造事業所数（従業者4人以上）
194事業所



H16従業者数（従業者4人以上）
7,648人



H16製造品出荷額（従業者4人以上）
139,392百万円



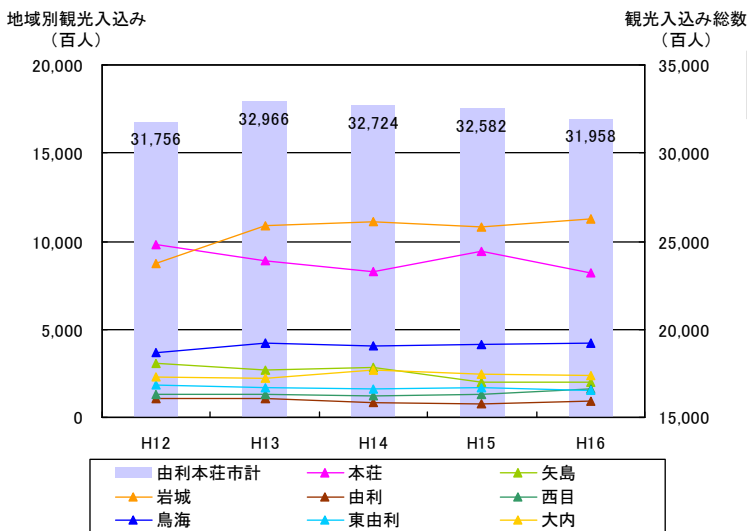
⑤ 観 光

本市は鳥海山や子吉川、日本海などの多様な自然資源に恵まれ、また多くの歴史・文化遺産が残されています。しかしながら観光入込み人数は、年間 320 万人程度で横ばい状態にあります。日本海沿岸東北自動車道・本荘インターチェンジの供用開始に伴い本格的な高速交通ネットワークの時代が到来した本市は、観光地として新たな局面を迎えていると言えます。

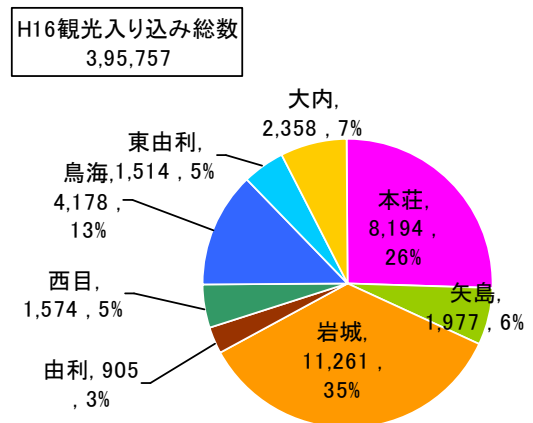
また、地域別の観光入込み数は、本荘地域及び岩城地域が多く、それぞれ全体の 1/4 以上を占め、次いで鳥海地域が続いています。これは主要な観光スポットや受け入れ態勢が整った施設が日本海沿い（本荘地域、岩城地域）に多いためと考えられます。

月別に観光入込み数を見ると、夏の7月～8月が多く、次いで5月となっています。観光入込みの県内外比率及び宿泊比率から、本市の観光形態は県内からの日帰り客が大半となっており、日本海沿岸東北自動車道（本荘 I.C）の供用開始を契機として県外観光客の取り込み、宿泊比率の向上を図ることが課題と言えます。

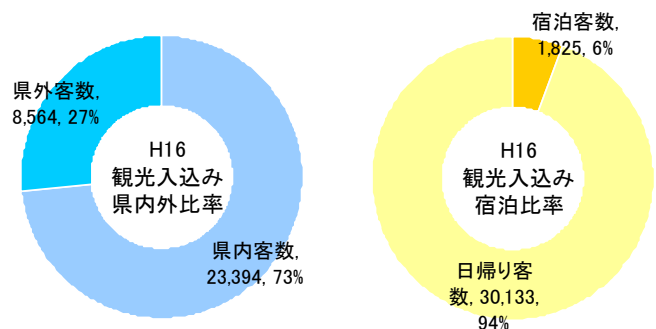
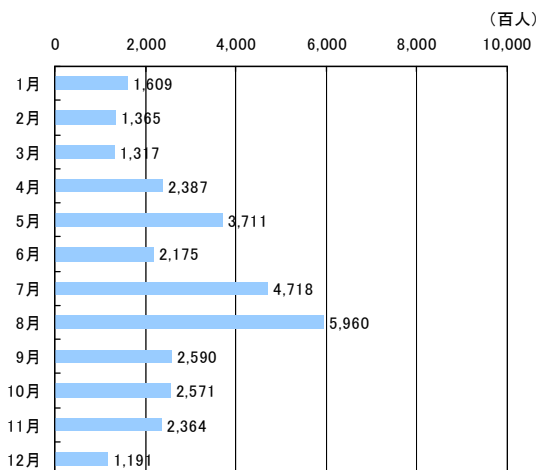
■ 観光入込数の経年変化



■ 地域別観光入込状況 (H16)



■ 月別観光入込状況 (H16)

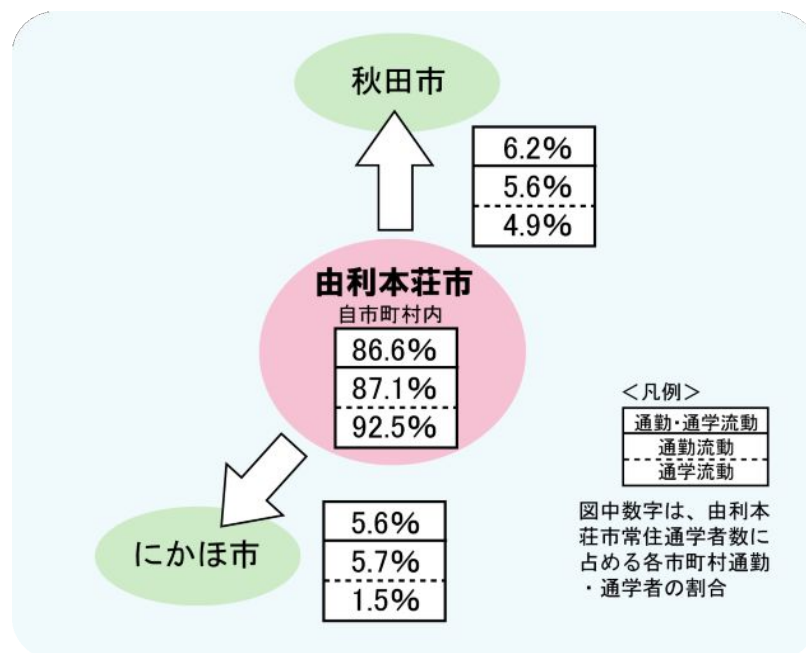


⑥ 日常生活圏

■ 通勤・通学流動

本市と周辺都市との関係を通勤・通学流動の面から見ると、秋田市、にかほ市との関係が強いことがわかります。通勤流動は、秋田市とにかほ市に通勤する人の割合がほぼ同じで、本市常住従業者数の約6%が両市に通勤しています。

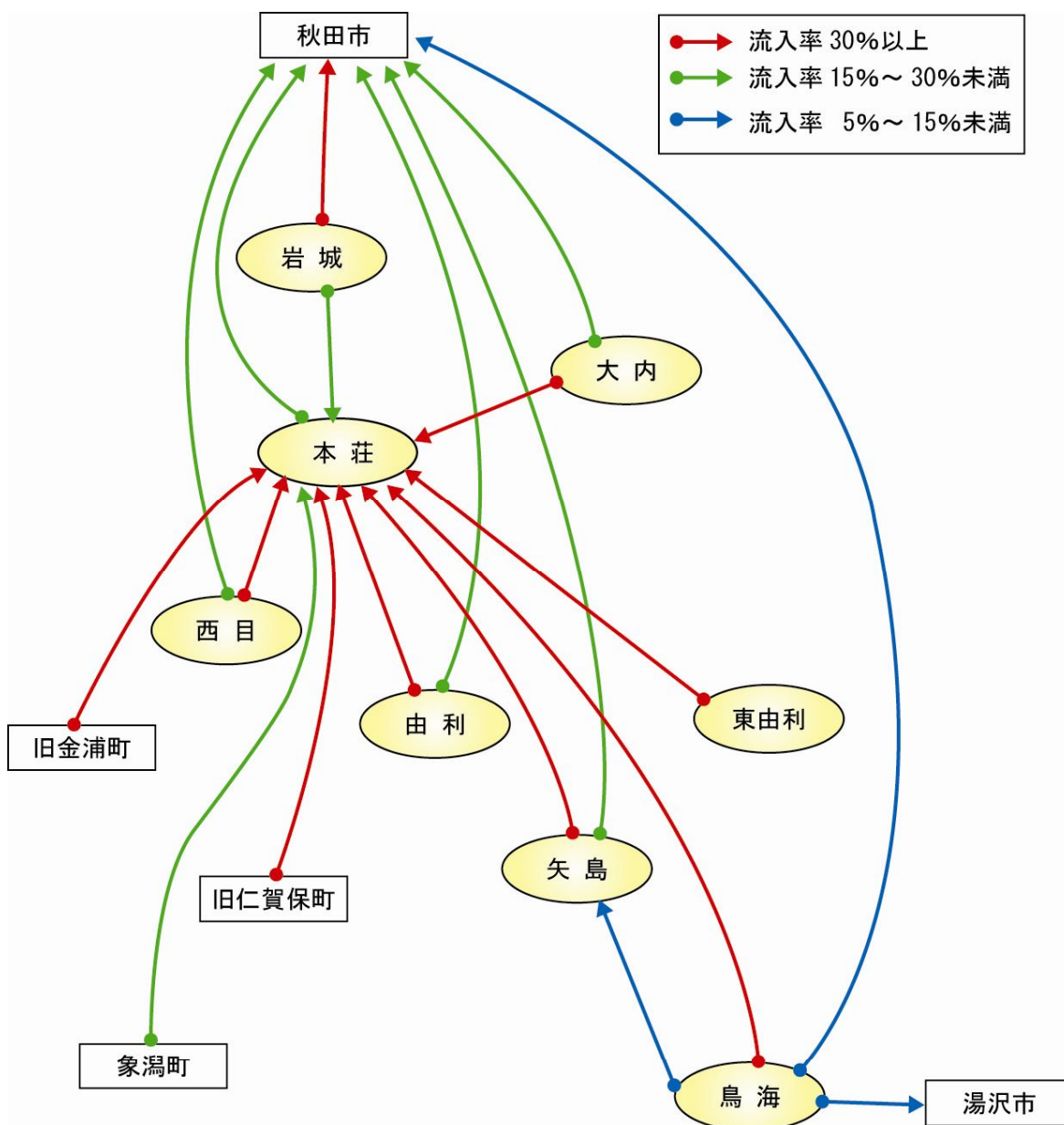
通学流動は秋田市とのつながりが強く、本市常住通学者数の約5%が秋田市に通学していますが、にかほ市は約1.5%となっています。このことから秋田市とは通勤・通学の両面とも深い関係ですが、にかほ市との関係は通勤、働く場としての関係が強いと言えます。



資料：H17 国勢調査

■買物等の流動

買物等の流れを買回品（購買頻度が比較的少なく、店頭で見比べて購入を決める商品）の市内各地域及び周辺都市との流入・流出関係で見ると、本荘地域が市内各地域からの流入が高い他、にかほ市（旧仁賀保町、旧金浦町）からも高い流入率を示しています。本荘地域以外は、他地域から流入する地域はなく、本荘地域への一極集中型となっています。ただし、市北部の岩城地域については、本荘地域よりも秋田市への流出が高く、買回品については秋田市への依存度が高くなっています。



▲買回品の流入・流出図（由利本荘市関連のみ表示）

資料：消費販売動向調査結果便覧 2002年版（秋田県）

(2) 由利本荘市の特性

○県南西部の核都市

由利本荘市は、本荘・由利地域の1市7町による合併により誕生した市で、県南西部の核都市として期待されています。

○豊かな自然と歴史資源

本市は、鳥海山や子吉川、日本海といった多様な自然資源に恵まれ、鳥海山登山道の県境における海拔1,757m（県内最高点）から日本海の海拔0mに至るまで変化に富んだ自然環境・自然景観を見せてくれます。市域の74.6%を森林が占めており、水源涵養の機能や二酸化炭素の吸収による地球温暖化防止などの機能に加え、登山、ハイキング、森林浴などのレクリエーション空間としての役割を担っています。

子吉川は、源を秋田・山形県境にそびえる鳥海山に発し、笹子川・鮎川等の支流を併せて本荘平野を貫流して、由利本荘市において石沢川、芋川を合わせて日本海に注ぐ一級河川です。鳥海国定公園に指定されている山麓をはじめ、県緑地保全地域の指定を受けた石沢峡などの観光資源を有するほか、堰などの落差のある河川工作物が存在しないので自然に近い河川となっており、多くの貴重な川魚が生息しています。

また、本荘地域、岩城地域（亀田）、矢島地域は、旧城下町であり、歴史・文化遺産が数多く残されています。

○高速交通ネットワーク時代を迎える由利本荘市

国土開発幹線自動車道である日本海沿岸東北自動車道の本荘I.Cが平成19年に供用開始となり、本市も本格的な高速交通ネットワーク時代を迎えようとしています。その他に地域間高規格道路として本荘大曲道路が計画路線に指定され、整備区間の一部0.8kmが岩谷道路として日本海沿岸東北自動車道・大内JCTと国道105号を結ぶランプウェイとして機能しています。

高速自動車道整備のインパクトを活用した広域交流の拡大、都市の活性化が期待されています。

○広大な市域を有し、本荘地域に集中する人口・産業構造

本市は約1,209k㎡という広大な面積を有しており、県全体の面積の約1割を占め県内では第1位の面積を有する都市です。市域の約75%を森林が占め、その他の平野部や平坦地に合併前の旧市町の市街地が分散立地しています。本市を構成する8つの地域のうち本荘地域に人口及び商業・工業などの産業が集中する構造となっています。

買物の動向からも、買い周り品は他の地域から本荘地域への流入が明確であり、本荘地域が本市の中核的都市機能を担っていると言えます。

2-2 都市計画の現況

(1) 土地利用

都市は市民の生活や産業などさまざまな活動が行われる場であり、これらの諸活動が快適で効率よく、かつ安全に営めるような空間を実現していくことが都市計画の役割です。

都市計画では適正な土地利用の誘導や建築物の用途に対する制限等により、土地の合理的な利用と秩序ある市街地の形成を図っています。都市の中心市街地から郊外の農地や田園地域及び保全・活用すべき森林地域に至るまで、人や物の動き、都市の発展の見通し、地形などから見て、一体の都市としてとらえる必要がある区域を「都市計画区域」として指定しており、本市では「本荘都市計画区域」と「矢島都市計画区域」の2つの区域を指定しています。本荘都市計画区域は面積 6,447ha で市域面積の 5.3%、矢島都市計画区域は面積 447ha で市域面積の 0.4%の割合となっており、合計で 6,894ha、市域面積の 5.7%が都市計画区域になっています。

1) 本荘都市計画区域

本荘都市計画区域の土地利用方針は、「市街化区域」と「市街化調整区域」の区域区分は定めず、用途地域のみを都市計画決定しています。

*市街化区域：既に市街地になっている区域や計画的に市街地にしていく区域

*市街化調整区域：市街化を抑制すべき区域

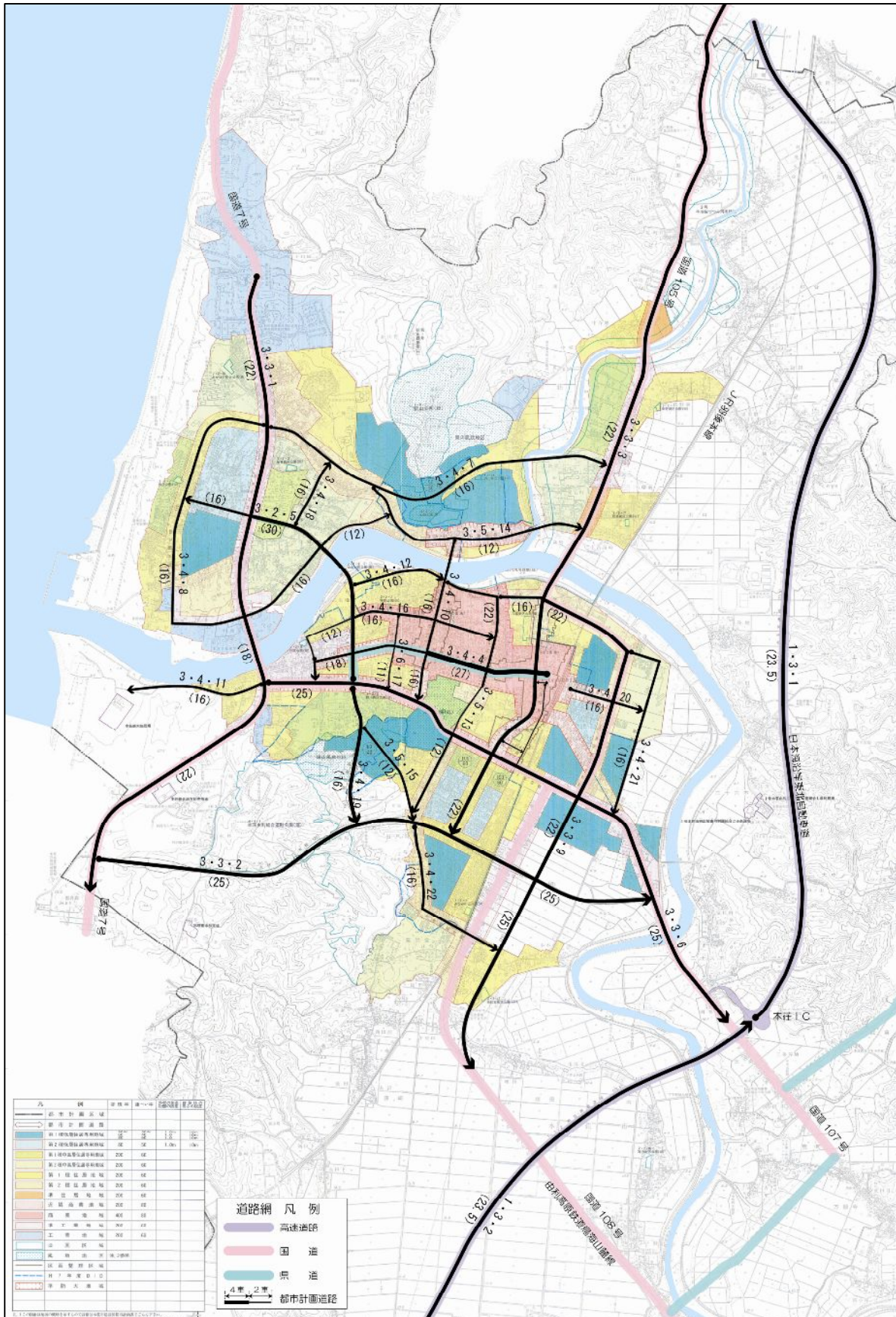
■用途地域

建築物の用途を制限することにより秩序ある市街地の形成を図ることを目的として用途地域を指定しており、建築物の用途、建ぺい率、容積率等の制限を内容としています。

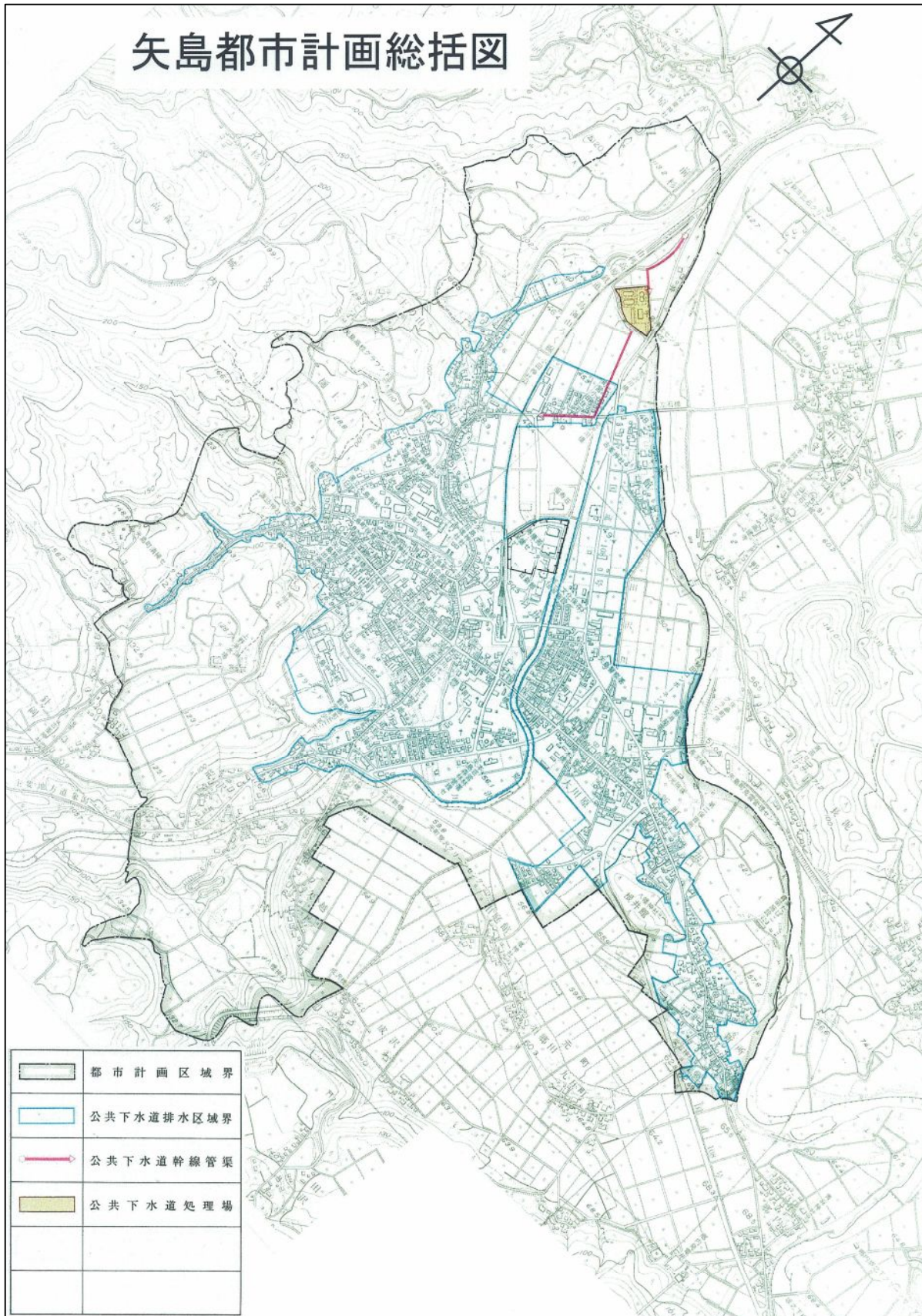
2) 矢島都市計画区域

矢島都市計画区域では、市街化区域と市街化調整区域の区域区分および用途地域の指定は定めていません。

■本荘都市計画区域の概要



■ 矢島都市計画区域の概要



(2) 道路・交通体系

交通体系は、土地利用とともに都市空間のあり方を規定する基本的な要素であり、道路や公共交通機関は、都市活動を支える重要な基盤施設です。そのため、都市計画において現況の問題点や将来の課題などを踏まえて、計画的に整備することとしています。

本荘都市計画区域では、都市計画道路を定めていますが、矢島都市計画区域は都市計画道路を定めていません。

1) 道 路

本市の骨格を形成する道路は、国道7号が海岸沿いを南北に縦断し、国道105号、107号、108号が本荘地域の市街地内で交わり、放射状に各地域を結ぶ形となっています。

また、市街地の東側を国土幹線自動車道である日本海沿岸東北自動車道が南北に縦断しており、本市には北から岩城IC、松ヶ崎亀田IC、大内JCT、本荘IC（松ヶ崎亀田IC以南は平成19年供用済）が整備され、本格的な高速交通の時代を迎えました。

2) 鉄 道

本市の鉄道は、日本海沿いをJR羽越本線が通り、市内には7つの駅が設けられています。また、市内（本荘～矢島間）を第3セクターが運営する由利高原鉄道が走り、沿線住民の通勤・通学の足として重要な役割を担っています。

3) 路線バス

市内のバス路線は、本荘地域の中心市街地と各地域拠点を結ぶ形で放射状に整備され、高校生や高齢者などにとって不可欠な交通機関となっています。

(3) 都市施設

本市の都市施設として以下のものが決定されています。

1) 下水道および河川

快適で衛生的な生活環境の実現と自然環境の保全を図るため、本荘都市計画区域と矢島都市計画区域で公共下水道が都市施設として決定しています。また、治水・利水の両面から、子吉川の河川改修の推進を計画的に進めています。

2) 公園・緑地等

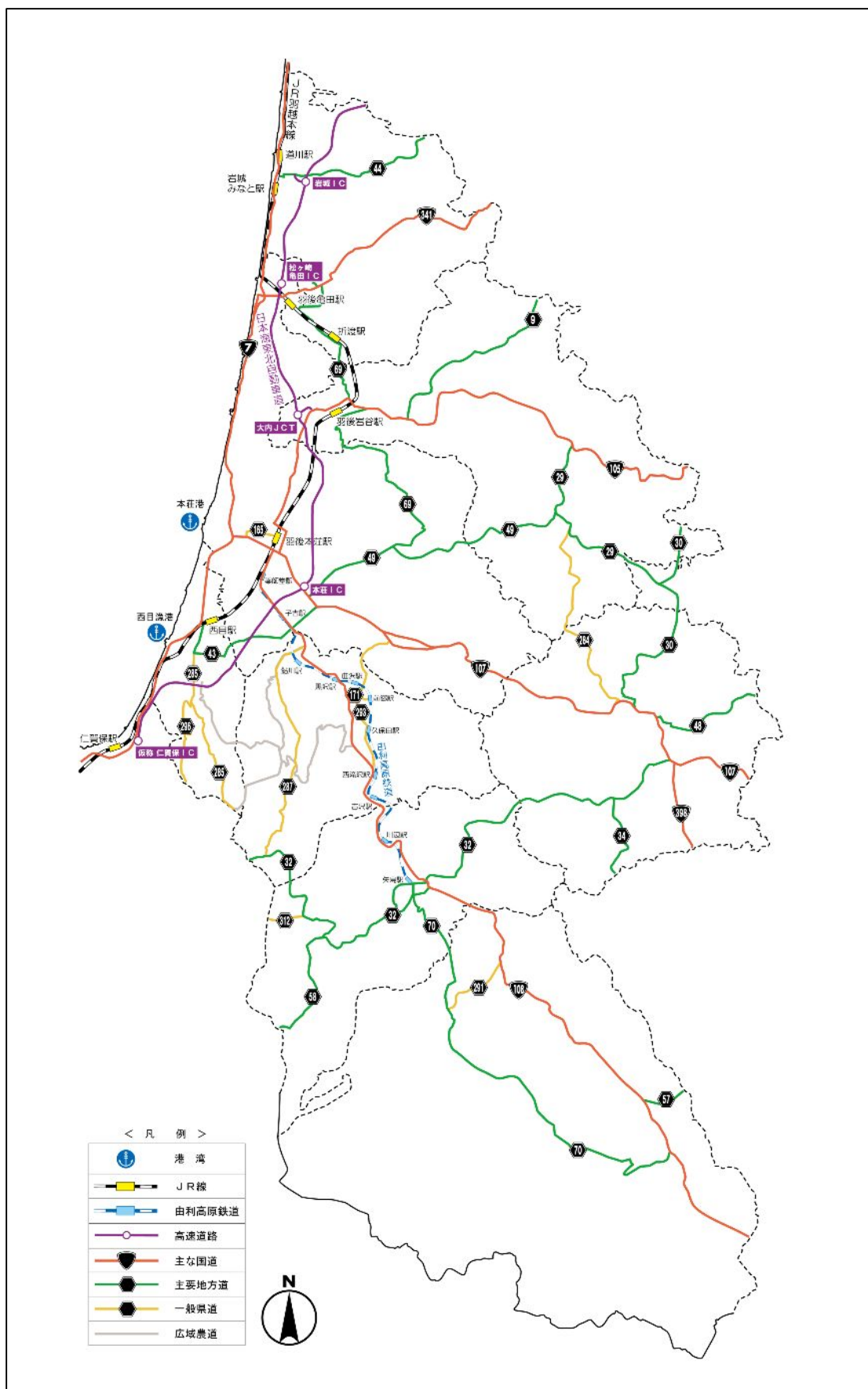
都市における緑の拠点として本荘都市計画区域において、都市計画公園を定めています。

(4) 市街地整備

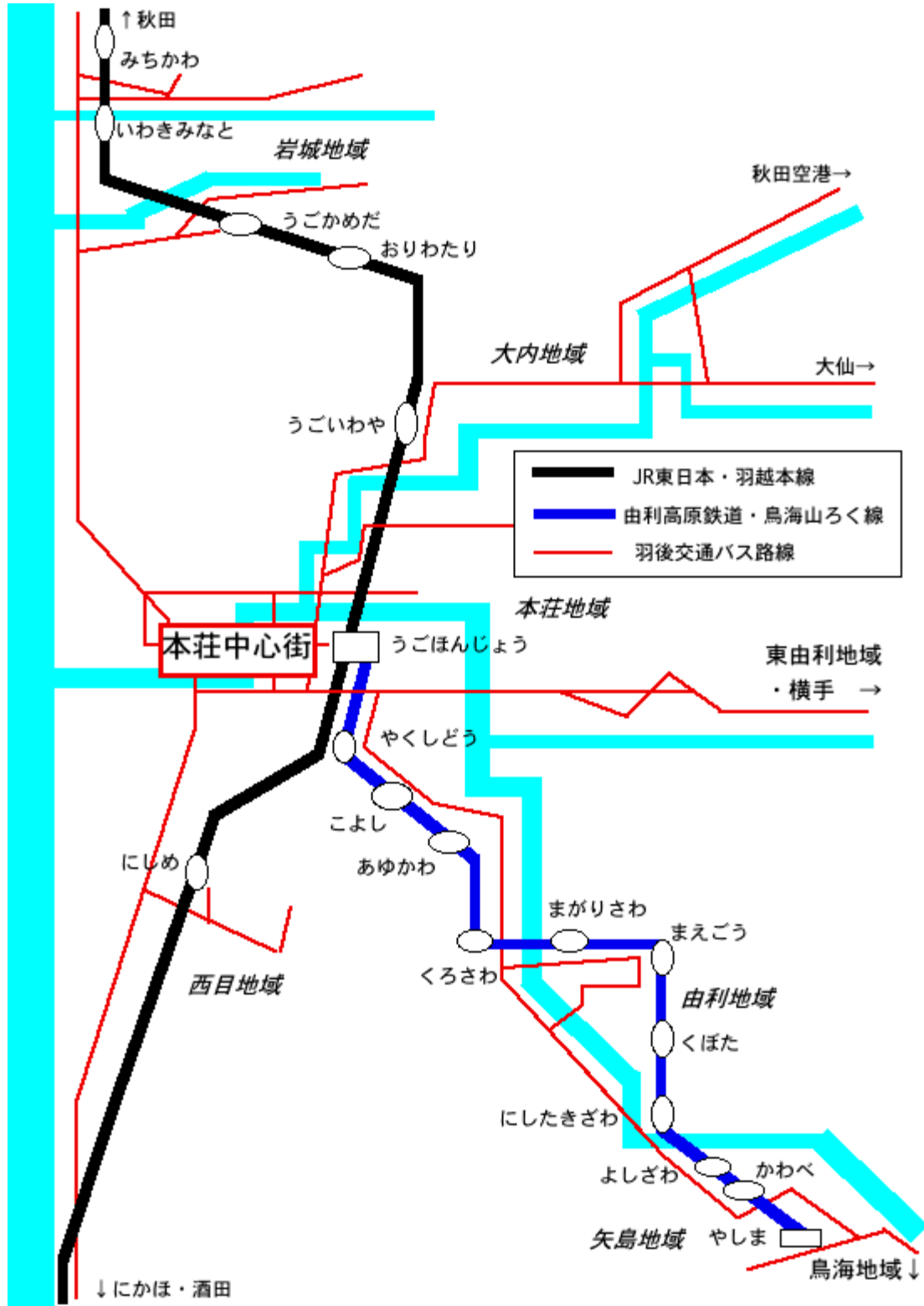
本荘都市計画区域では、市街地中心部で2カ所の土地区画整理事業が完了しており、現在、本荘中央土地区画整理事業（約11.6ha）が進められています。

また、矢島都市計画区域では、これまで1箇所個人施行の土地区画整理事業が行われましたが、現在施行中又は計画決定済みの事業はありません。

■ 道路交通網図



■由利本荘市のバス・鉄道路線図



出典：HP「由利本荘のバス・鉄道」より